令和8年10月23日

令和８年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和８年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和8年4月23日(木)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問調査）

中学校　第３学年（国語，数学，英語，生徒質問調査）

4　本校の参加状況

①　国語　　３８人

②　算数　　３８人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

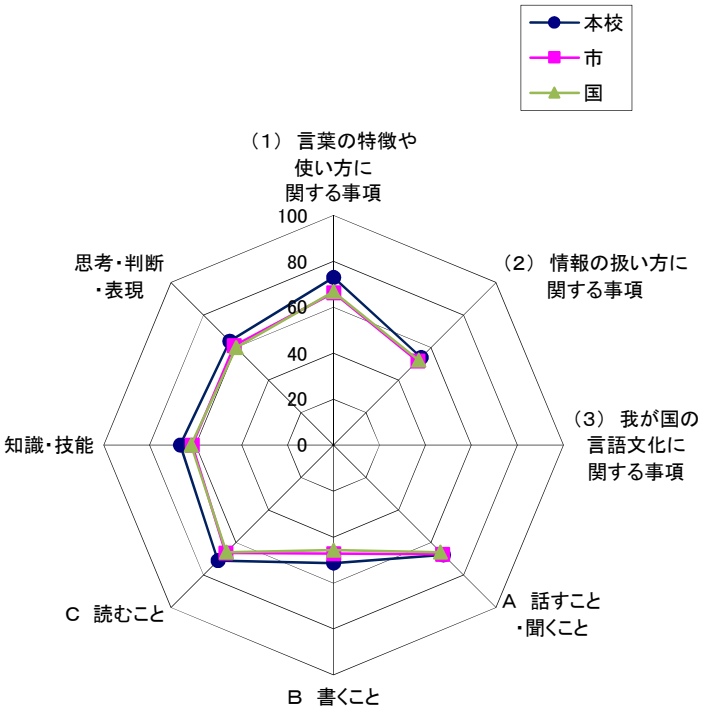
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.0	66.3	66.8
	（2） 情報の扱い方に関する事項	53.9	51.8	52.3
	（3） 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	67.5	67.1	65.8
	B 書くこと	51.3	47.2	45.7
	C 読むこと	71.1	66.4	65.9
観点	知識・技能	66.7	61.5	62.0
	思考・判断・表現	63.9	61.2	60.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

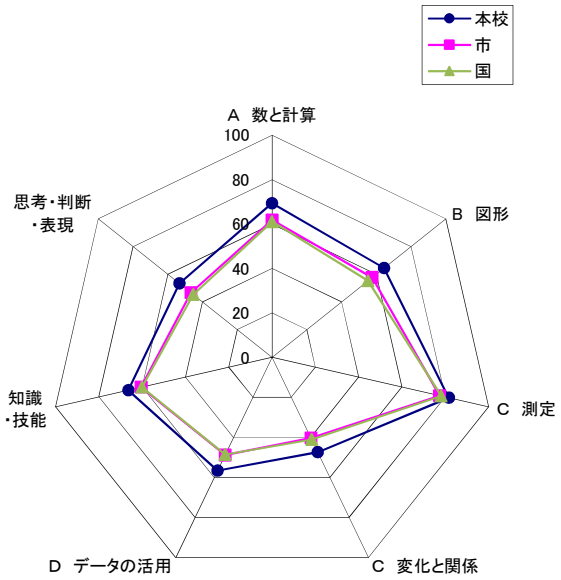
	本年度の状況	今後の指導の重点
○良好な状況が見られるもの	・資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題や，比喩や反復などの表現の工夫に気付くかどうかをみる問題は，国や県の平均正答率を大きく上回っている。 ・文の中で使われている漢字の書き取り問題も，国や県の平均を大きく上回っている。授業中に漢字の間違えやすい箇所の確認や家庭学習で書き取りの練習を行い，テストをこまめに行ったりした成果と考えられる。 【A話すこと・聞くこと領域・1（1）（3）】【2（3）】	・今後も引き続き，構成メモを考える活動では，自分の考えが相手に伝わるような工夫を取り入れるよう具体例を提示し，指導していく。漢字の書き取りにおいても，練習に繰り返し取り組むことを引き続き推進し，既習漢字は，生活の中で積極的に使用していくよう指導をしていく。
●課題が見られるもの	・筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題では，平均正答率は，国や県の平均をやや下回っている。問題文の意図をしっかり確かめなかったり，文章をよく読まず，表面的な印象だけで回答したりした結果，誤答となってしまったと推測される。自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。 【書くこと・2（1）】	・文章を最後まで読み，理解することの大切さを繰り返し指導する。辞書などを活用し，言葉の意味を理解させることも大切にしていく。文章を書く際には，何のために書くのか目的を明確にし，そのための方法や工夫を交流したり，確かめたりする活動を重点的に行うようにする。

宇都宮市立宮の原小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	69.4	61.8	61.1
	B　図形	64.5	57.6	55.3
	C　測定	81.6	77.4	78.1
	C　変化と関係	47.4	40.3	41.1
	D　データの活用	56.6	48.8	48.6
観点	知識・技能	66.4	60.5	60.1
	思考・判断・表現	53.3	46.7	45.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

	本年度の状況	今後の指導の重点
○良好な状況が見られるもの	・多くの領域・内容で国や市の平均正答率を上回っており，基礎的基本的な学力が概ね定着している。 ・日常生活の問題を解決するために，図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え，示された条件を基に，調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述する問題や整数と小数の減法の計算問題，単位分数の個数に着目し，数直線上の1を表す目盛りを捉える問題では，国や県の平均正答率を大きく上回っている。 ・数と計算に関わるその他の問題も国や県の平均正答率を10ポイント以上上回っている。習熟度別学習や少人数指導において，丁寧に指導した成果と考えられる。 【A 数と計算 2(2)・4(4)・3(6)】	・整数，小数，分数の計算の意味や数の大きさを実感的に捉えさせるために，図や数直線に表し，技能を身に付けることにつなげる指導を繰り返していく。 ・今後も引き続き，問題場面を把握し，既習事項を適切に活用しながら数や言葉を用いて記述することができるよう，自力解決の時間を確保したり，それぞれの考えを共有して検討したりする場を設けたりする。
●課題が見られるもの	・百分率で表された割合と比較量から，基準量を求める問題では，全国の平均正答率をわずかに下回っている。割合の意味を理解し，数量の関係を適切に捉えることに課題を抱えている児童が見られる。また，この問題の無回答率は，7.9パーセントと高い。 ・異分母の分数の大小を判断し，その理由を数や言葉を用いて記述する問題も国や県の平均正答率をわずかに下回っている。 【C 変化と関係 5(3)】 【A 数と計算4(5)5(4)】	・今後は，主に授業において数直線を用いて視覚的に整理し「比較量・基準量・割合」の関係を意識して立式する活動を充実させる。また，求める量が何であるかを根拠とともに説明したり，友達と考えを交流したりする活動を取り入れ，数量関係を多面的に捉える力を育てていく。 ・学校全体としては，他学年や他単元の学習場面でも数直線を用いて数量の関係性を表現する活動を共通して取り入れることで，数量関係を正確に捉える力を育てていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「学校の悩みについて，あなたの親や家族は，どれくらいあなたと話しますか」の設問では，「ほぼ毎日」「週に1～2回」「月に1～2回」の回答割合が全国の平均を上回った。ご家庭で保護者の皆様が日頃から温かく寄り添い，励ましてくださったからこその成果である。日々のお力添えに深く感謝したい。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という設問では，本校の肯定回答が92．9%で，全国平均を12．8ポイント上回った。様々な場面で最高学年として活躍し，学校に大きく貢献してきた成果であると考えられる。今後も児童の良さを発揮しながら自己有用感を感じられるような活動を充実させていく。

○タブレットに関するほとんどの設問で本校の肯定回答割合が全国を上回った。特に「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか」の設問では，本校の肯定回答が85．7%で，全国平均を11．1ポイント上回った。国語や総合，外国語などの教科で，学習したことをまとめる際に積極的にタブレットを使った成果であると考える。引き続き，学習内容に応じて適切な場面でタブレットを活用していく。

○学習態度に関する設問でも肯定回答が多い。特に「学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか」と「授業で学んだことを，次の学習や実生活に結び付けて考えたり，生かしたりすることができると思いますか」の設問では，どちらも本校の肯定回答割合が全国の平均を10ポイント近く上回った。日ごろの家庭学習や本校で取り組んでいる家庭学習強化週間による成果であると考えられる。今後も家庭学習での予習・復習を奨励し，適切な学習態度の育成に励む。

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問では，肯定回答割合が全国平均を下回った。国語や道徳，学級活動などで行われる話し合い活動を通して，互いの意見の良さや違いについて考えることが大切であると実感できるよう指導していく。